

非常時持出品・備蓄品

大災害が発生するとライフラインが途絶え、被災地以外からの救助が到着するまで数日を要します。この数日間、ご自身や家族の命を守るために『非常時持出品・備蓄品』リストを参考に家族の人数や構成に合わせて必要なものを揃えましょう。

非常時持出品

- 懐中電灯
- 予備の乾電池
- 携帯電話
- 充電器
- 携帯ラジオ
- 運転免許証
- 母子手帳
- 健康保険証
- 医薬品(常備薬)
- おくすり手帳
- 現金(小銭多めに)
- 通帳、印鑑
- ビニール袋(数枚)
- 眼鏡、コンタクトレンズ
- 下着、靴下、タオル
- マスク(多めに)
- 体温計
- 除菌アルコール等
- 雨具
- 靴、スリッパ(枕元に)
- 筆記用具

備蓄品

※乳幼児やアレルギーを持つ家族がいる場合は、対応食をあわせて備蓄しましょう。

- 飲料水(1人1日3リットル)
- 食料品(保存のきくもの)
- 給水用ポリタンク
- ラップ類
- ビニールシート
- 新聞紙
- トイレットペーパー
- 簡易トイレ
- ウェットティッシュ
- 毛布、寝袋
- ビニールひも
- 布製ガムテープ
- 衣類
- 軍手・皮手袋
- ボール
- 卓上コンロ
- 予備ボンベ
- ライター・マッチ
- 食器類
- 使い捨てカイロ
- 生理用品
- 紙おむつ
- ヘルメット・防災頭巾
- ホイッスル
- 救急箱
- 絆創膏・包帯等
- ダンボール
- 家族の写真
- 家族の写真(はぐれた時の確認用)

持出品はリュックサックなどを使い、持ち運びできるかを一度確認してみましょう。



日頃から食料や日用品を少し多めに買い置き備蓄する「循環備蓄(ローリングストック)」を心掛けましょう。

備蓄する量の目安は最低3日分(理想は7日分)。

- 飲料品: 1人あたり1日3リットル
- 食料: 調理せずに食べられるもの(クラッカー、缶切り無しで開けられる缶詰など)
- トイレパック: 1人あたり1日5回分
- 常備薬、マスク、除菌アルコール等



防災メモ

家族・親族・知人の連絡先と避難場所

いざという時に備え、家族で避難場所を決めておきましょう。また、万が一に備えて連絡先なども記入しておきましょう。

| 名前 | 勤務先・学校の電話番号 | 携帯電話番号 | 緊急避難場所 |
|----|-------------|--------|--------|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

家族が離れた時の集合場所(指定避難所)

tel: _____

災害伝言ダイヤル 伝言録音: 171→1→電話番号※ 伝言再生: 171→2→録音と同じ電話番号※

※市外局番からおかけください。

情報収集手段

海津市では、災害時にいち早くみなさんへ情報提供を行うため、防災行政無線、登録制のメール配信サービス、ケーブルテレビによる情報提供を行っております。ぜひご利用ください。

防災行政無線

放送した内容をもう一度確認したい場合は、海津市広報無線専用ダイヤルをご利用ください。

0120-930-367(通話料金 無料)
0180-995-367(通話料金 有料)

海津市メール配信サービス

海津市では広報無線・緊急災害情報、火災、防犯情報や、生活情報などを電子メールでパソコンや携帯電話に発信しています。



登録はコチラ

大垣ケーブルテレビ

海津市の災害情報・避難情報などを発信します。海津市の大垣ケーブルテレビに加入しており、チャンネルOCT[12ch]を視聴できる環境が必要となります。

防災WEBアプリが誕生!

海津市防災行政情報 スマートフォン・タブレットで、いつでも簡単に!

iPhoneの方



Androidの方



防災に役立つ3つのサービス

ブックマーク登録で、いざという時に備えよう!

総合情報はこちらから

岐阜県総合防災ポータル



安全な避難経路を考えるなら

ぎふ山と川の危険箇所マップ



海津市

令和3年度に岐阜県清流の国ぎふ推進補助金を受けています

防災リーフレット

保存版

令和3年5月発行



災害はいつでもどこで起きるかわかりません。この防災リーフレットを活用し、日頃から家庭・学校・職場で話し合い、いざという時でもあわてず冷静に行動できるようにしましょう。

※各ご家庭で大切に保管してください

地震編

大地震が発生した時の行動と避難の流れについて確認しましょう!

※状況に応じて、一時避難場所ではなく、広域避難場所に直接避難する事も選択してください。
※津波の危険がある場合はより早く、より高い場所へ避難しましょう。

大地震発生

大きな揺れの最中は、その場に合った方法で、身の安全を確保しましょう。



屋外には窓ガラスや看板などが落ちてくる危険性があるので、慌てて外に飛び出さないようにしましょう。



揺れがおさまったら、すばやく火の始末をしましょう。
※大きな揺れの最中は無理に消火せず、まずは身を守りましょう。



家の中に閉じこめられないようにドアを開けて出口を確保しましょう。



周囲の状況を確認しましょう!火災や倒壊の危険や不安があれば避難所へ、なければ在宅退避を。

家の危険箇所をチェックしてますか?

リビングの注意点

- テレビなどを固定する。
- 出入口に物を置かない。
- ストープは耐震装置が付いているものを使用し、燃えやすい物を近くに置かない。
- 懐中電灯を設置しておく。

寝室の注意点

- 寝室には極力家具を置かない。(特に背の高いもの)
- 寝ている側に倒れてこないよう位置を工夫する。
- 出入口付近に家具を置かない。
- 本棚はしっかりと固定し、中身が飛び出さないようにする。
- 懐中電灯を設置しておく。

玄関、廊下の注意点

- 玄関、廊下には物を置かず、避難口を確保する。

台所の注意点

- 食器棚の固定と、食器類の飛び出し防止対策をする。
- ガラスには、飛散防止フィルムを貼る。
- 電子レンジや冷蔵庫は固定する。
- 観音開きの扉には止め具を付ける。



風水害編

風水害時にとるべき行動は、5段階の「警戒レベル」により明確化しています。それぞれのレベルで、どのように行動すればよいか、下の表で確認しましょう。

| 警戒レベル | 防災気象情報 警戒レベル相当情報(例) | 避難情報 | 避難行動の目安 |
|-------|---|--------------------------------|---|
| レベル5 | 氾濫発生情報、大雨特別警報等 (国土交通省、気象庁、都道府県が発表) | 緊急安全確保 (市町村が発令) 災害発生又は切迫 | 災害発生! 警戒レベル5「緊急安全確保」の発令を待ってはいけません! 既に災害が発生して安全な避難ができない状況です。命を守るための最善の行動を! |
| レベル4 | 氾濫危険情報、土砂災害警戒情報等 (国土交通省、気象庁、都道府県が発表) | 避難指示 (市町村が発令) 災害のおそれ高い | 全員避難! 速やかに避難所へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。 |
| レベル3 | 氾濫警戒情報、洪水警報等 (国土交通省、気象庁、都道府県が発表) | 高齢者等避難 (市町村が発令) 災害のおそれあり | 高齢者などは避難を開始! 避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)は避難をしましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。 地域の皆さんで声を掛け合って安全・確実に避難しましょう |
| レベル2 | 大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁が発表) | | 避難に備え、ハザードマップ等で避難方法を確認しましょう。 備蓄品などは水浸しないよう安全な場所に用意しましょう。 ・テレビやラジオで情報収集 ・家族に連絡 |
| レベル1 | 早期注意情報 (気象庁が発表) | | 最新情報に注意 天気予報を確認し、災害への心構えを高めましょう。避難することになった場合に備え、持ち出し品・備蓄品、常備薬などの確認もおこないましょう。 |

※避難場所は、感染予防対策を実施していますが、自宅で安全が確保できる場合には、在宅避難を検討してください。

水平避難

● 安全な場所へ避難

(指定緊急避難場所、土砂災害警戒区域及び浸水想定区域外の親戚の家など)

垂直避難

● 近隣の高い建物へ避難
● 自宅などの今いる建物内の2階以上へ避難

⚠️ 大雨や台風の時の避難場所は、状況に応じてその都度決定します。

避難場所に行く前に

- 開設避難場所の確認、開設状況の確認
- 避難場所への持参物を手に持つ、背負う
- 戸締り、火元確認

ペットとともに避難する方

- 知人、ペットホテル等の一時預け先の確認
- ペット用非常持ち出し袋、ケージの準備
- ペットタクシー、車送迎など移動手段を検討

車での避難

令和元年の台風19号では、車で避難中に道路の冠水や崩落で亡くなったケースが多くありました。車を活用した避難や避難に支援が必要な方の送迎については、早い段階で実施しましょう。
※行政が開設する避難場所への車の駐車は原則禁止となります。



※川幅や雨の降り方によっては、水位が一気に上昇してあふれる事もあります。

防災の心得編

普段から心掛けよう

- 避難訓練に参加しよう
- 非常用持出品を準備しよう
- 家庭で避難場所を確認しよう
- ハザードマップを見ながら避難経路を確認しよう
- 家具の固定をするなど、安全な場所を確保しよう
- 地域の交流を深めよう
- 災害情報の収集手段を知っておこう
- 応急手当の方法を知ろう

避難の際に心掛けよう

- 自分の身を守る行動を
- 正確な情報を収集しよう
- お年寄りなどの避難に協力しよう
- 早めに避難を開始しよう
- ガスの元栓、ブレーカーは切っておこう
- 外の天候や道路状況に注意しながら避難しよう
- 避難時は動きやすい服装で、2人以上で行動しよう
- 避難所ではルールを守って気持ちよく

命を守る最低限の行動

災害時、もっとも大切なことは、避難場所への早めの避難(水平避難)です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、外出が危険な場合、近くの建物の高階層や自宅の上階など、高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も大切です。

避難場所の選択肢を増やす分散避難について考えよう

避難とは、「難」を「避」けることです。安全な場所を確保できれば、必ずしも避難所にこだわる必要はありません。避難所以外に避難する分散避難は、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを下げることに有効です。

【考えられる避難場所の例】

- 在宅(2階以上)
- 指定緊急避難場所
- ホテル、旅館
- 親戚や友人宅

こんな時は屋外の移動は危険です!

- 夜間や急激な降雨で路上の危険箇所がわかりにくい。
- 浸水の為、水の流れが速い。用水路の位置が分からないといった事があり、転倒の危険がある。
- 津波が迫っていて、高台への避難が間に合わない。

垂直避難も有効です

浸水による建物倒壊の危険が無いと判断される場合には、自宅や近隣建物の高い場所へ緊急的な一時避難も検討してください。

※注意報や警報が発令された場合は、なるべく外出は控えましょう。避難に関する情報が出ていない時でも、身の危険を感じた場合は、周囲の人と相談し、安全な場所を確保するようにしましょう。